

No	感染症(PT)	出典	概要
286	マラリア	CDC/MMWR 56(SS06); 23-38 2007 年6月8日	米国CDCは2005年に死亡例7例を含む1528例のマラリアの発症を確認した。2004年より15.4%の増加である。米国国内で感染した2例は先天性感染であり、両例とも三日熱マラリア感染であった。死亡例は全て熱帯熱マラリアであった。
287	マラリア	HPA/Health Protection Report 1(43) 2007年10月26日	2007年3月9日、HPA Malaria Reference Laboratoryは、2006年12月29日-2007年3月14日に診断された、インドGoaを訪問した英国の旅行者における熱帯熱マラリア原虫によるマラリア症例5例について報告した。熱帯熱マラリアの増加はGoaの住民で確認され、2007年の上半期に788例報告された。前年同時期においては240例であった。英国マラリア予防委員会は旅行会社がGoaへの旅行者にマラリアの化学的予防を勧めるよう2007年3月にマラリアガイドラインを更新した。
288	マラリア	ProMED- mail20070501.1414	ジャマイカ保健省によると、2007年4月の1ヶ月間に新規のマラリア症例11例が報告された。内2例は、メスのハマダラカが媒介する熱帯熱マラリア原虫によるものであった。また、2006年12月に最初の症例が報告されて以降、輸入感染症例が7例あった。2007年4月1~21日の間に実施された884検体の検査の結果、血液検体陽性率は0.7~1.8%で減少を続けている。最近、 <i>Anopheles albimanus</i> 蚊がマラチオン殺虫剤に耐性を示し始めたことが確認されたため、感染拡大を防ぐために代わりの殺虫剤を探している。
289	マラリア	ProMED- mail20070716.2287	2007年7月16日、インドGoa州の保健当局は熱帯マラリアの増加に対し懸念を表明した。同州では2007年1~6月の間に熱帯マラリア症例が約788例報告された。2006年は240例であった。同州の2007年1~6月のマラリア症例は、2006年の症例数が1552例であったのに対し、およそ2883例であった。
290	マラリア	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P239	韓国における輸血によるマラリア感染の発生について調査した。マラリア診断前6ヶ月間以内に供血を行った供血者は、2005年5月~2006年8月の三日熱マラリア患者2056名中46名(2.2%)であった。46名の保管血液51検体についてPCRを実施し、PCR陽性の血液成分を輸血された全受血者を調査したところ、1名の受血者に輸血によるマラリア伝播が確認された。PCRに基づくマラリア遡及調査は、輸血によるマラリア伝播の特定に役立つ。
291	リケッチア症	Jpn J Infect Dis 2007; 60: 241-243	血清学的、微生物学的に確定された日本紅斑熱の初めての死亡症例を報告する。淡路島在住の77歳男性で、2005年9月2日に食欲低下を呈し、翌日、下腿に皮疹が出現、4日目に38.7°Cの高熱、歩行障害、構音障害が出現、肝機能障害が急速に進行し、DIC、消化管出血により8日目に死亡した。右肩にダニ刺し口があった。血液よりDNAを抽出し、PCRを実施したところ、塩基配列は <i>R. japonica</i> と100%一致した。日本紅斑熱は増加傾向にあり、注意が必要である。
292	リケッチア症	OIE/Q fever, Argentina 2007年9月 17日	アルゼンチンにおけるQ熱-Follow-up report No. 2(最終報告): 開始日-2005年11月10日、アウトブレイクの確定日-2005年11月10日、報告日-2007年9月14日、前回の発生日-1998年、病原-Coxiella burnetii、本報告における新たなアウトブレイクはない、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
293	リケッチア症	ProMED- mail20070809.2592	2007年5月29日にオランダ南部のNoord-Brabant地方の開業医から肺炎症例の異常な増加が保健所に警告され、詳細な診断の結果、大部分の患者はCoxiella burnetti感染に血清学的に陽性であることが明らかとなった。また、2007年1~4月に同地方で6例のQ熱症例が報告された。オランダ全体では2007年1月1日から8月2日までにQ熱の確定および疑い症例は63例報告されている。
294	リケッチア症	朝鮮日報 2007年8月 21日	韓国では最近ツツガムシ病の患者が急増している。2007年8月20日、疾病管理本部の発表によると、2002年に1,919人だったツツガムシ病の患者数が、04年は4,698人、06年には6,420人に増加したことが分かった。1993年末に法定伝染病に指定されて以来、患者数は実に25倍以上増加した。ツツガムシ病は、主に9月以降、ツツガムシ菌に感染したツツガムシ(ダニの一種)の幼虫に刺されることにより感染する。10日間程度の潜伏期を経ると、突然高熱が発生し、目の充血、頭痛、筋肉痛、発疹などの症状が現れる。
295	リンパ性脈絡 髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa0737 85	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4~6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
296	レプトスピラ 症	ProMED- mail20070429.1395	アルゼンチンSanta Fe地方で2007年4月に同地方を襲った嵐の後にレプトスピラ症のアウトブレイクが起こった。Rosarioでは疑い例が39例あり、内3例が確定された。Santa Fe地方では約400例に達した。首都ではこの病気の症状の5例が死亡した。Rosarioでの疑い例39例は最も洪水による被害を受けた地域で発生しており、当局は洪水被害を受けた地方全域に警告を発した。